

日時：2021年4月29日（木・祝） 13：00～16：30

場所：神戸ポートピアホテル

◆ 会長部門

次年度会長 神 名 大 典

4月29日（木・祝）神戸ポートピアホテルにおいて2021年地区研修・協議会が開催されました。緊急事態宣言下ということで、全体会議のみ行われ、出席者も次年度会長・幹事のみとなり、リモート併用のハイブリッド方式により開催されました。私は直前まで会場で参加する予定でしたが、諸事情によりリモート参加となり、会社から参加させていただきました。

例年通りの進行で、出席者紹介、開会あいさつ等があり、次期地区研修リーダー矢野宗司氏の力強い言葉の後、吉岡ガバナーエレクトより次年度RIテーマと地区活動方針の説明がありました。休憩の後東京広尾RC服部陽子氏による「公共イメージ向上と会員基盤の強化」についてのお話があり、地区予算、地区リーダーの紹介、地区委員会の活動についてなどのお話があり、関本剛会員による特別講話がありました。関本会員は緩和ケア医でありながらステージ4の肺がんが見つかり、残された人生をいかに生きるかを理路整然と話されました。私はこの講話に大変感動し、生きている限り一生懸命に生きなければと考えさせられました。別の場所で話された関本氏の卓話は地区ホームページの新着動画のところにありますので是非ご覧下さい。会長部門の分科会の内容については以下の通りです。

2021-22年度年間数値目標

1. 会員増強各クラブ純増2名
2. My ROTARY登録率75%以上
3. ロータリー財団年次基金1名あたり160ドル
4. ロータリー財団恒久基金ベネファクターまたは遺贈友の会会員の10名増
5. ポリオ基金1名あたり40ドル
6. 米山記念奨学会1名あたり17,000円

また、RIシェカール・メータ会長より「私は、2021-22年度に少なくとも一回、実践的かつ行動思考のロータリー奉仕デーのイベントを計画・開催していただくよう、すべてのクラブにお願いしたいと思います。このイベントは、ロータリー重点分野の一つ以上に該当する地域社会の課題に、ロータリー内外のボランティアが一緒に取り組めるものとする必要があります。このイベントは、職業やロータリーとの関係にかかわらず、地域の家族や協力団体とともに有意義な奉仕に取り組む機会となります。皆さんの意義ある活動を、地域社会の人々に広く知ってもらいましょう。」との言葉があり、このことについては西播第2グループ全体で考えるべきだと思っています。

## ◆ クラブ管理運営部門

### 次年度クラブ奉仕委員会 委員長 本 條 昇

地区・クラブ管理運営委員会（矢坂誠徳委員長）の次年度方針、依頼・推奨事項は次の通りです。

#### 1. クラブ運営報告アンケートについて

今年度同様に、コロナ対応を含めた例会運営の態様について、地区内全クラブにアンケートを実施し、ガバナー月信と地区ホームページに掲載して共有します。クラブ運営の参考に。

#### 2. クラブ管理運営委員会の役割について

クラブに於けるクラブ管理運営委員会（当クラブではクラブ奉仕委員会）の活動にクラブ幹事が関与することが望ましいと考えます。どうすれば例会を興味深く、価値あるものにするかについて、委員会で熟慮を。

#### 3. 危機管理委員会および戦略計画委員会の設置について

クラブに、非常時対応を担当する「危機管理委員会」および中長期課題を所管する「戦略計画委員会」の設置（委員会としての新設が困難な場合は、既存委員会の職務分掌の中で各業務の導入）を推奨します。理事会にて協議を。

#### 4. My ROTARY「ラーニングセンター」の活用について

クラブ管理運営に関する標記オンラインリソースの活用を推奨します。

#### 5. オンライン例会の開催について

非常時の対応策として、オンライン会合の活用に向けた準備を。地区・OM（オンラインミーティング）推進小委員会が支援します。

#### 6. その他

クラブ運営の基本として、ロータリー章典やクラブ定款・細則の熟知・活用、および年齢層に応じた柔軟な対応を心がけて。移りゆく社会動向とロータリーの変化に取り残されないように。

コロナ禍の現状を受け容れて、智恵と工夫で出来ることから始めていかなければ進展は図れません。熱意を持ってクラブの活性化を。困難なときほど、熱い思いは伝わり、友情をより育むことになるのでは。

## ◆ 増強拡大部門

### 次年度会員増強委員会 委員長 本 條 昇

地区・会員維持増強委員会（梅原可奈子委員長）の次年度方針、依頼・推奨事項は次の通りです。

#### 1. 会員増強の目的について

会員増強の目的は、志を同じくする仲間を得ることです。ロータリー運動の両輪である「親睦」と「奉仕」を基本とし、その上に「学び」を意識した仲間づくりを。

#### 2. 会員増強の手法について

会員増強に当たっては、マーケティングの観点を持って。「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」と。

#### 3. 「会員維持増強セミナー」について

2021年7月10日（土）に標記セミナーを開催します。形式、テーマ、受講対象者等、詳細未定。

## ◆ 職業奉仕部門

### 次年度職業奉仕委員会 委員長 高 田 真 也

龍野ロータリークラブの皆様も、ロータリーにおける職業奉仕についてご自身のお考えをお持ちであることと思います。また、日本のロータリアンには私を含めて、職業奉仕はロータリーの根幹である、との考えの会員が大半であるように見えます。

今回の地区研修会では、2021-22年度職業奉仕委員会委員長の大内晋二様（神戸須磨）のレジューメが配布されました。そこでは、最近のロータリーの問題状況「職業奉仕」を中心に、と題して、R I 理事会の職業奉仕に関する基本的考え方と、日本のロータリアンの考え方との距離が開いてきていることに対する危機感が書かれています。

龍野ロータリークラブ職業奉仕委員会としては本年度も「四つのテスト」「ロータリーの行動規範」の唱和を続けます。また職業奉仕月間などあらゆる機会をとらえて皆でロータリーの職業奉仕を考え続けて行くようにします。

## ◆ 社会奉仕部門

### 次年度社会奉仕委員会 委員長 伊 藤 充 弘

研修資料によりますと、ロータリーにおける社会奉仕は決議23-34（社会奉仕に関する1923年の声明）で確立されました。以下説明いただいた内容を抜粋して転記します。

\* ロータリー理念、原則の確立⇔理論派と実践派の対立の回避

- ・ ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕-「超我の奉仕」-の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践理論の原則に基づくものである。
- ・ 奉仕する者は行動しなければならない。ロータリーとは単なる心構えのことを言うのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に移さなければならない。
- ・ ロータリアン個人もロータリークラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。

その後、1963年にはこの決議23-24を補足し、クラブや地区が社会奉仕活動を実践する際の手続きが定められました。それにより、RI理事会はクラブに対して、財政的貢献ばかりではなく、「実際に汗を流すような」社会奉仕プロジェクトを開始、推進することを奨励してきました。

最後に次の言葉で締めくくられております。「今、ロータリーが動く時です。あなたのクラブの積極的な社会奉仕活動を望みます。」

このコロナ禍においては、ロータリーの役割は以前に増して重要になっていると感じます。次年度は社会奉仕の原点に戻り、クラブとして出来ることを実践していきたいと感じました。

## ◆ 青少年奉仕部門

### 次年度社会奉仕委員会

副委員長（青少年担当） 永 富 靖

#### 青少年奉仕全体について

すべての青少年プログラムは「青少年を育てる」ことを目的に、様々な「機会を提供する」ことを手段としている。

青少年奉仕に関わるすべての青少年が、経験を積み、様々な能力を深め成長していくことになり、ここに集う青少年の選択肢が拡大し、学ぶ機会が増え、また活動・活躍の幅も広がり、ロータリーとしては「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」に繋がっていく。

#### インターアクト (IAC)

中学、高校生または12～18歳の若人で構成され、指導力、思いやり、家族を大切にする心、他人の尊重、地域社会に対する責任、社会への奉仕、国際社会の理解について学び実践します。

#### ローターアクト (RAC)

社会奉仕と国際奉仕を通じて行動し、リーダーシップのスキルを学び、職業人としての能力開発に参加する若い成人の団体です。

#### RYLA (ライラ) セミナー

ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA) は当地区では20歳以上の若者が集まり、リーダーシップスキルと人格を養いながら、ロータリーについて学ぶ集中研修プログラムです。

## ◆ 国際奉仕部門

### 次年度国際奉仕委員会 委員長 富 田 哲 雅

次年度国際奉仕委員会に於いて、室津義貞国際奉仕委員会小委員長と中井章詞VTT小委員会小委員長から以下の通り説明がありましたので報告致します。

先ず、国際奉仕小委員会ですが、第1にロータリーの重点分野の基本方針として従前からの1. 平和構築と紛争予防、2. 疾病予防と治療、3. 水と衛生、4. 母子の健康、5. 基本的教育と識字率向上、6. 地域社会の経済発展の6点に加え、次年度から7点目として環境が重点分野に掲げられると説明があり、また、各重点分野について目的や目標や受領資格の判断基準等の詳細な説明がありました。

第2に前掲の基本方針の下で2680地区の人的プロジェクト実施例の説明がありました。即ち、2680地区は前掲の基本方針の内、コロナ禍で、2の疫病予防と治療の他、3, 5, 6について人的プロジェクトを実施したと報告があり、その実施例について詳細な説明がありました。

第3にグローバル補助金プロジェクトの資金調達について説明がありました。特に、年次基金寄付の配分比率 (シェアシステム) が次年度から変更されること、即ち、DDF (地区財団活動資金) の減額分が、WF (国際財団活動資金) がその減額分に加算されることやクラブ現金拠出金に対する2680地区DDFの上乗せに関することや、2026年より未使用DDFの繰り返し可能期間が5年間とされることや、重点分野での大規模プログラム補助金についての説明がありました。

次にVTT (職業研修チーム) 小委員会では、先ず、VTTとは、従前のGSEを継承し、2013年にスタートしたロータリー財団の『未来の夢計画』により、特定分野の専門家チームを海外に派遣

或いは受け入れて研修を行い、地域社会の発展に寄与することを目的とすると共に、研修を通じて専門分野以外でも地域間の理解や交流に貢献することを目的に、メンバーの職業的スキルや知識の伝授を通じて活動する持続可能・測定可能なプログラムであると説明がありました。

そして、効果的なVTTの実施により、地域社会が自律的に問題を解決し、生活を改善する力を身に付けることが可能になると共に、VTTに参加することは自分の職業スキルや知識を活かして奉仕に参加する機会が得られると説明されました。

またVTTの実施の為の補助金としては、地区補助金とグローバル補助金の2種類がある他、奉仕プロジェクト特別会計支援金があると紹介があり、夫々について、申請等に関する詳しい説明がありました。

最後に、奉仕プロジェクト実施の為、以上のすべての補助金は、7つの重点分野を支援するプロジェクトであることと、且つ、夫々持続可能性があり、測定可能で、地域社会が主導する内容であることが要件とされることを強調された上、各クラブは地区にプロジェクトを申請するように要望がありました。

## ◆ ロータリー財団部門

### 次年度ロータリー財団委員会 委員長 崎野圭子

丸尾研一ロータリー財団委員長のPPからご報告させていただきます。

委員会は以下の5つの小委員会で構成し運営されます。(奨学金・平和フェロシップ小委員会は国際奉仕委員会管轄へ)

#### ① 補助金小委員会 (佐茂小委員長)

7つの重点分野における地区補助金とグローバル補助金について、2021年7月1日より、年次基金(シェア)寄付100ドルは、国際財団活動資金(WF)47.5ドル、地区財団活動資金(DDF)47.5ドル、運営費5ドルの配分となる。

#### ② 財団資金管理小委員会 (飯田小委員長)

年次基金寄付と恒久基金の収益部分が財源  
その取扱いについては、寄付を財源としていることから「公金」とし、公正性・合理性と客観的根拠に基づく説明責任を保持し管理する。

#### ③ 資金推進小委員会 (松井小委員長)

シェカール・メータ次年度RI会長は、超我の奉仕“最もよく奉仕する者、最も多く報いられる”に感銘され、寄付することへの情熱を育まれた。寄付活用についてはMy ROTARYでご確認いただき、寄付についての情熱を醸成ください。

#### ④ ポリオプラス小委員会 (宮岡小委員長)

野生ポリオウイルスによる感染がアフガニスタンとパキスタンで(残る0.1%)闘いが続いている。地区ではポリオ基金40ドル/人とする。

#### ⑤ 環境の保護小委員会 (城小委員長)

補助金で環境保護のための取組をします。

2021-2022年度目標は、『一人当たり150ドルとし、年次基金寄付ゼロクラブゼロ』です。皆様のご協力をお願い致します。

## ◆ 米山記念奨学部門

### 次年度ロータリー財団委員会

副委員長（米山記念奨学担当） 藤 井 まゆみ

#### ① ロータリー米山記念奨学事業とは

日本で学ぶ外国人留学生に対し、全国のロータリアンの寄付金を財源として奨学金を支給する国際奨学事業です。将来、日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することを目的としています。

他の奨学金との違いは奨学生一人ひとりに地域のロータリークラブが「世話クラブ」となり、さらに、世話クラブ会員の中から「カウンセラー」が選ばれて、奨学生の日常の相談役となります。

#### ② 地区の奨学生の現状

- ・人数 2021年度 27名の予定（前年比1名減）
- ・国籍 中国、韓国、ベトナム、インドネシア、ネパール、台湾、ドイツ、チュニジア、  
バングラデシュ 他

#### ③ 寄付金の現状

2021年度発表の2680地区の寄付実績は13,359円で全国平均寄付額を下回っています。普通寄付金・特別寄付金あわせて年間一人17,000円の目標達成にご協力をお願いします。

## ◆ 幹事部門

次年度幹事 池 田 和 由

### 次期幹事研修セミナーPart 2

#### クラブの現状分析

- RIのテーマとRI会長の強調項目
- 2021-22年度ガバナー行動指針
- 3月21日の次期幹事研修セミナーの確認
- クラブのビジョンと戦略計画
- クラブの目的
- クラブの現状分析・クラブの持続可能性チェック
  - ① クラブ管理運営（チェックボックス10項目、以下同じ）
  - ② クラブの奉仕活動と公共イメージの向上
  - ③ 会員増強とクラブの多様性
  - ④ クラブと会員の参加意欲
  - ⑤ ロータリー財団並びに米山記念奨学金への貢献

3月21日に行われた次期幹事セミナーの続編としての開催予定でした。残念ながら非常事態宣言中ということもあり全体会議のみの開催でした。（4月29日 13:00～16:30）

#### 各挨拶の中で印象に残った言葉

- ロータリーは助けを必要とする地域に手を差し伸べる、それを確認する場所である。
- 研修＝研究＋修養 昭和20年代に生まれた比較的新しい言葉。自らの人格を磨く。

- 鰯=弱しから命名由来。すぐに弱らないようにナマズを側に。緊張して弱りにくいとか。ロータリーも緊張感を持って活動を！
- とあるクラブ。創立50周年記念日が解散日。なぜなら若い会員の増強が出来なかったから。
- とても感動した特別講話の関本剛氏（神戸東RC）「がんになった緩和ケア医が語る「残る2年」の生き方、考え方」



↑ 動画見れます

#### 公式訪問の実施項目

1. 会長・幹事懇談会で、クラブの現況やクラブの抱える問題点を協議する。
2. 例会での卓話を通じて、奉仕の理想やRIテーマを語り、会員とのコミュニケーションを深める。
3. 会長・幹事懇談会や卓話の中で、ガバナーの行動方針等を確認する。